

読書のすゝめ

その9

H30

4 / 27

新任の先生紹介⑨

杉山章正先生（農業）



『毎日使える！野菜の教科書』

川端理香（宝島社）

生徒の皆さんも身近な野菜の特性を知り、食への感謝をし、おいしさを実感していただきましょう。



君和田勤先生（農業）



『月刊 現代農業』（農文協・農山漁村文化協会）

日本全国で活躍されている農家の名人たちの体験談や農業のコツや裏ワザなどがわかりやすく紹介されています。私も新しい栽培にチャレンジするのに役に立っています。魅力が沢山つまった本です。是非読んでみて下さい。



小屋野光一先生（農業）



『君の臍臓を食べたい』住野よる

皆さんの中には小説を読むことが面倒くさいと思い、毛嫌いな若い方々も多いと思います。しかし、私は本を読むという事は、コミュニケーションの能力を上げてくれる効果もあると考えます。登場人物の気持ちを考えることで、それぞれの「登場人物の価値観」を受け取ることができるようになります。相手の気持ちを考えるという事は、今後の長い人生において必ず必要になっていきます。もしも、いま自分の感情や言葉を上手く伝えることが苦手だと悩んでいる方には読書がおすすめです。



さて、この『君の臍臓を食べたい』は昨年に映画化して見に行った方も多いいのではないのでしょうか。当初、私はこの本の題名に衝撃を受け、本屋でついつい手にとってしまった。この本のあらすじとしては、大して接したことがない明るい性格のクラスメイトである山内桜良の日記「共病文庫」を、人と接することが苦手な主人公が病院で偶然拾います。その日記の中には彼女が臍臓の病気で余命が長くないということが記されていました。そこから、「山内桜良の死ぬ前にやりたいこと」に付き合うことにより、二人の中が深まって行くという物語です。物語前半の正反対な性格の持ち主二人だからできる爽快な会話が楽しめたり、後半の主人公の内面的だった性格が桜良との関係によって変わっていく様子などが読んでいてとても考えさせられる本でした。この本は普段読書をしていない方でも読みやすいと思います。一度読んで方は、主人公の名前が明かされず、最後の方まで「僕」だったり、「○○なクラスメイトくん」と呼ばれていた理由について考えながら読むと、さらに面白く読めると思います。

冒頭の方で私が述べた「登場人物の価値観の受け取り方」は、読み手である皆さんによって変わっていきます。たまに、自分では理解できないような性格を持ったキャラクターも出てくることもあります。これは現実でも同じです。年上の方や、同じ年の方、年下の方、さらには男性、女性によって、自分とは価値観や考え方の違う人がたくさん居ます。その人たちの気持ちや分らないからといって、関わるのが嫌だと思わず、接してみてください。きっと新たな発見があると思いますよ。

※次号は図書委員会の報告です。

